

安芸地域アクションプランの追加・削除・拡充等 (予定項目)

安 芸 地 域 本 部
令和7年1月27日(月)

地域アクションプランへの支援の方向性

新規事業の掘り起こしや既存事業が抱える課題の解決を図りながら、地域アクションプランの実現に向けて、産業振興推進地域本部を中心に取り組みを推進していく。

（１）地域アクションプランの実行支援

- ①課題解決型アドバイザーと連携して、個別課題の解決を支援
- ②課題一貫支援型アドバイザーと連携して、地域への経済波及効果が大きい案件の全体的な課題の整理・分析及び解決策の検討を支援
- 拡** ③中山間地域における正規雇用の拡大を図るため、実施主体が取り組む設備投資への支援を強化

（２）新たな地域アクションプランの掘り起こし

- ①発掘支援型アドバイザーと連携して、地域アクションプランへの位置付けを目指す取り組みを掘り起こし
- 拡** ②地域おこし協力隊や起業者の情報を基に個別訪問を行うなど、市町村や商工会等と連携した取り組みを強化

地域アクションプランの増減 R6年度 153件 → R7年度 156件（+3）

（1）追加（新規）： 4 件

- 日高村におけるクラフトビール工房を軸にした交流人口の拡大と地域の活性化（日高村）
- 仁淀川町「池川こんにゃく」の生産拡大による地域の活性化（仁淀川町）
- 仁淀川町の町内資源を活用したジン・ウイスキーのブランド化による地域の活性化（仁淀川町）
- 仁淀川町アウトドアリゾートプロジェクト（仁淀川町）

（2）削除（廃止）：▲ 2 件

- くろしおミウガ販売拡大プロジェクト（須崎市、中土佐町、津野町）
- 佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進（黒潮町）

（3）分割： 1 件

- 宿毛市の地域資源を活用した観光振興（宿毛市）
→[分割] 道の駅「すくもサニーサイドパーク」を拠点とした地域振興（宿毛市）

	R6年度 (第5期)	R7年度 (第5期Ver.2)				
	AP数 R7.1月時点	増減				AP数
		追加	削除	分割	計	
安芸	20					20
物部川	19					19
高知市	14					14
嶺北	16					16
仁淀川	29	4			4	33
高幡	25		▲ 1		▲ 1	24
幡多	30		▲ 1	(1→2) 1		30
合計	153	4	▲ 2	1	3	156

安芸地域アクションプラン項目（第5期計画（R6年度）と

No.	現在(令和6年度)	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
		5	3	5	4	4	5	3	5	3
1	「村を売り出す」有機栽培ゆず製品の販路拡大による地域の活性化								●	
2	東洋町のポンカン加工品の販路拡大と後継者確保による地域振興			●						
3	芸西村の白玉糖を活用した地域活性化									●
4	馬路の林業加工品の販売促進								●	
5	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大	●		●	●	●	●			
6	道の駅キラメッセ室戸を核とした地産地消・外商の拡大	●								
7	安芸市中心市街地の活性化		●							
8	道の駅東洋町を拠点とした地域振興			●						
9	なはりの郷を核とした特産品の販売促進と体験型観光の推進				●					
10	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み					●				
11	やすだ資源を生かした新商品開発による地産外商の推進						●			
12	地場産品直販所「かっぱ市」を核とした地域活性化									●
13	安芸地域の観光振興の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14	日本遺産を活用した中芸地域の活性化				●	●	●	●	●	
15	室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興	●								
16	安芸市のユズ、ナス等の地域食材や観光資源を活用した交流・関係人口の拡大		●							
17	東洋町における体験型・滞在型観光の推進	●		●						
18	安田川アユおどる清流キャンプ場における交流人口の拡大による地域の活性化						●			
19	北川村観光3施設を核とした交流人口の拡大							●		
20	自然や歴史・文化を活用した山と暮らす馬路村の観光振興								●	

第5期計画Ver. 2（R7年度）の対比表）

【安芸地域】

No.	改定案(令和7年度)	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
		5	3	5	4	4	5	3	5	3
1	「村を売り出す」有機栽培ゆず製品の販路拡大による地域の活性化								●	
2	東洋町のポンカン加工品の販路拡大と後継者確保による地域振興			●						
3	芸西村の白玉糖を活用した地域活性化								●	
4	馬路の林業加工品の販売促進								●	
5	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大	●		●	●	●	●			
6	道の駅キラメッセ室戸を核とした地産地消・外商の拡大	●								
7	安芸市中心市街地の活性化		●							
8	道の駅東洋町を拠点とした地域振興			●						
9	なはりの郷を核とした特産品の販売促進と体験型観光の推進				●					
10	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取り組み					●				
11	やすだ資源を生かした新商品開発による地産外商の推進						●			
12	地場産品直販所「かっぱ市」を核とした地域活性化								●	
13	安芸地域の観光振興の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14	日本遺産を活用した中芸地域の活性化				●	●	●	●	●	
15	室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興	●								
16	安芸市のユズ、ナス等の地域食材や観光資源を活用した交流・関係人口の拡大		●							
17	東洋町における体験型・滞在型観光の推進	●		●						
18	安田川アユおどる清流キャンプ場における交流人口の拡大による地域の活性化						●			
19	北川村観光3施設を核とした交流人口の拡大							●		
20	自然や歴史・文化を活用した山と暮らす馬路村の観光振興								●	

安芸地域アクションプランの追加・削除・拡充等(予定項目)

■追加

なし

■削除

なし

■その他(拡充、統合、分割等)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	No. 9 なはりの郷を核とした特産品の販売促進と体験型観光の推進（奈半利町） 【実施主体】◎（一社）なはりの郷、◎奈半利町、奈半利なんでも市加工グループ、NCL48、加領郷フィッシャリーズ、JA 高知県（安芸地区）、なはり浦の会	【修正】 「なはりの郷を核とした地域振興プロジェクト」（R5.4月～R6.12月）において、産振アドバイザーを派遣し、協議が行われた結果、なはりの郷の運営体制が改善され、物産館無花果の売り上げも順調に伸びてきたところ。 今後は、さらなる集客効果を上げるため、新製品の開発とともに物産館無花果のリニューアルを継続して検討することとし、令和6年度からの取り組みを追加する。
2	No. 14 日本遺産を活用した中芸地域の活性化（奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村） 【実施主体】◎中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	【修正】 取り組みの進捗に伴い、行程表における取り組みの名称を修正する。 （修正後） ・日本遺産サミット開催に向けた準備 ・自走に向けた体制の強化
3	No. 18 安田川アユおどる清流キャンプ場における交流人口の拡大による地域の活性化（安田町） 【実施主体】◎指定管理者（（有）ダディーズオピニオン）、◎安田町	【修正】 主な取り組みの一つとして、「安田川ファン拡大に向けた仕組み作り」を掲げているが、安田川だけでなくキャンプ場を中心とした流域全体の交流人口の拡大を目的とするため、「ファン拡大に向けた仕組みづくり」と改める。
4	No. 20 自然や歴史・文化を活用した山と暮らす馬路村の観光振興（馬路村） 【実施主体】◎馬路村	【修正】 観光基本構想策定後に実施予定の施設整備に関するスケジュールを見直し、令和7年度は施設整備の優先順位等を検討する準備期間としたことに伴い、行程表を修正する。

修正前

安芸地域アクションプラン		分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.9 なはりの郷を核とした特産品の販売促進と体験型観光の推進 (奈半利町)		
実施主体	◎(一社)なはりの郷、◎奈半利町、奈半利なんでも市加工グループ、NCL48、加領郷フィッシュリーズ、JA 高知県 (安芸地区)、なはり浦の会		
AP への位置づけ	H26.4 月		
事業概要	集落活動センターなはりの郷が中心となり、地域食材を活用した特産品の開発・販売を促進して地産外商を強化するとともに、海浜センターや地域資源 (生活体験学校等) を活用した体験型観光を推進することにより、交流人口の拡大を図る。		

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)物産館無花果の売上高	3,302 万円 (R4)				5,000 万円
(2)農水産加工施設の店舗売上高	2,132 万円 (R4)				2,600 万円
(3)JA 加工施設 (奈半利味噌) の売上高	843 万円 (R4)				930 万円
(4)奈半利町観光入込数	50 千人 (R4)				55 千人

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地産外商体制の強化	【(一社)なはりの郷】 ・経営改善計画を策定 (R2) →うちんくのビジネス塾制度の活用 ・予実管理の徹底など経営意識を醸成 (R3) →産振アドバイザー制度の活用 ・「なはりの郷を核とした地域振興プロジェクト」会議の開催、経営理念、事業戦略等を策定 (R5) →産振アドバイザー制度の活用 【奈半利なんでも市加工グループ (奈半利味噌) 】 ・施設の増床及び機械の追加導入 (H26) →産振補助金の活用 【NCL48 (奈半利のおかって) ・加領郷フィッシュリーズ (加領郷魚舎) 】 ・加工施設の整備 (H28) →地域づくり支援事業費補助金の活用	【成果】 ・「なはりの郷を核とした地域振興プロジェクト」の実施による経営改善及び新事業の検討 ・イチジクの作付面積拡大 H28:0a →R4:28a ・海浜センター体験メニューの充実及び利用客の増加 【課題】 ・人手不足 ・規格外イチジクの有効活用 ・広報不足
一次産業の振興	【(一社)なはりの郷】 ・施設の整備及び機械の導入 (H29) →複合経営拠点支援事業費補助金の活用 ・備品整備 (H29) →集落活動センター推進事業費補助金の活用 ・農作業受託、新規就農者受入れ等の推進 (H29～) ・不耕作地対策事業によるイチジク作付面積の拡大 (H29～)	
体験型観光の推進	【奈半利町】 ・奈半利町観光基本構想の策定 (R 元) ・海浜センターの備品(クリアカヤック等)を整備(R2) →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 ・奈半利町観光基本計画・基本設計の策定 (R2) →地域観光振興交付金の活用 ・海浜センターの改修及びキャンプサイトの整備等 (R3) →地域観光振興交付金の活用	

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
関係者の連携による販売商品の充実 ■(一社)なはりの郷 ・関係者の連携による新商品の開発 ・既存商品の磨き上げ ・販売戦略の策定 □県 (地域本部等) ・既存商品の磨き上げなどに関するセミナーの情報提供 ・商談会等の情報提供	関係者協議	新商品開発、磨き上げ	販売戦略の策定	
特産品の生産強化 ■(一社)なはりの郷 ・農作業指導者と研修生の確保、育成 ・なはりの郷各部門が連携し、イチジクの生産から加工、販売までを実施 □県 (地域本部、安芸農振センター等) ・栽培管理指導等 ・各種支援制度に関する情報提供	指導者確保	研修生確保 研修生育成	特産品生産体制の構築	
観光施設、地域資源の活用促進 ■(一社)なはりの郷 ・他団体と連携した体制強化 ・地域資源を活用した新たな体験メニューの検討 ・観光窓口としての物産館の在り方の検討 ・地域おこし協力隊制度を活用した人材確保の仕組みづくり □県 (地域本部等) ・各種支援制度に関する情報提供	他団体協議 観光窓口の検討	新たな体験メニューの検討	人材確保の仕組みづくり	

安芸地域アクションプラン		分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No. 9 なはりの郷を核とした特産品の販売促進と体験型観光の推進 (奈半利町)		
実施主体	◎(一社)なはりの郷、◎奈半利町、奈半利なんでも市加工グループ、NCL48、加領郷フィッシャリーズ、JA 高知県（安芸地区）、なはり浦の会		
AP への位置づけ	H26.4 月		
事業概要	集落活動センターなはりの郷が中心となり、地域食材を活用した特産品の開発・販売を促進して地産外商を強化するとともに、海浜センターや地域資源（生活体験学校等）を活用した体験型観光を推進することにより、交流人口の拡大を図る。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地産外商体制の強化	【(一社)なはりの郷】 ・経営改善計画を策定（R2） →うちんくのビジネス塾制度の活用 ・予実管理の徹底など経営意識を醸成（R3） →産振アドバイザー制度の活用 ・「なはりの郷を核とした地域振興プロジェクト」会議の開催、経営理念、事業戦略等を策定（R5） →産振アドバイザー制度の活用 【奈半利なんでも市加工グループ（奈半利味噌）】 ・施設の増床及び機械の追加導入（H26） →産振補助金の活用 【NCL48（奈半利のおかって）・加領郷フィッシャリーズ（加領郷魚舎）】 ・加工施設の整備（H28） →地域づくり支援事業費補助金の活用	【成果】 ・「なはりの郷を核とした地域振興プロジェクト」の実施による経営改善及び新事業の検討 ・イチジクの作付面積拡大 H28:0a → R5:33a ・海浜センター体験メニューの充実及び利用客の増加 【課題】 ・人手不足 ・規格外イチジクの有効活用 ・広報不足
一次産業の振興	【(一社)なはりの郷】 ・施設の整備及び機械の導入（H29） →複合経営拠点支援事業費補助金の活用 ・備品整備（H29） →集落活動センター推進事業費補助金の活用 ・農作業受託、新規就農者受入れ等の推進（H29～） ・不耕作地対策事業によるイチジク作付面積の拡大（H29～）	
体験型観光の推進	【奈半利町】 ・奈半利町観光基本構想の策定（R 元） ・海浜センターの備品(クリアカヤック等)を整備(R2) →観光施設等緊急整備事業費補助金の活用 ・奈半利町観光基本計画・基本設計の策定（R2） →地域観光振興交付金の活用 ・海浜センターの改修及びキャンプサイトの整備等（R3） →地域観光振興交付金の活用	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)物産館無花果の売上高	3,302 万円 (R4)				5,000 万円
(2)農水産加工施設の店舗売上高	2,132 万円 (R4)				2,600 万円
(3)JA 加工施設（奈半利味噌）の売上高	843 万円 (R4)				930 万円
(4)奈半利町観光入込数	50 千人 (R4)				55 千人

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
関係者の連携による販売商品の充実 ■(一社)なはりの郷 ・関係者の連携による新商品の開発 ・既存商品の磨き上げ ・販売戦略の策定 <u>・物産館無花果のリニューアルについて検討</u> □県（地域本部等） ・既存商品の磨き上げなどに関するセミナーの情報提供 ・商談会等の情報提供 <u>・産振補助金の活用、申請支援、補助制度に関する情報提供等</u>	関係者協議	新商品開発、磨き上げ	販売戦略の策定	物産館無花果リニューアルについての検討
特産品の生産強化 ■(一社)なはりの郷 ・農作業指導者と研修生の確保、育成 ・なはりの郷各部門が連携し、イチジクの生産から加工、販売までを実施 □県（地域本部、安芸農振センター等） ・栽培管理指導等 ・各種支援制度に関する情報提供	指導者確保	研修生確保 研修生育成	特産品生産体制の構築	
観光施設、地域資源の活用促進 ■(一社)なはりの郷 ・他団体と連携した体制強化 ・地域資源を活用した新たな体験メニューの検討 ・観光窓口としての物産館の在り方の検討 ・地域おこし協力隊制度を活用した人材確保の仕組みづくり □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供	他団体協議 観光窓口の検討	新たな体験メニューの検討	人材確保の仕組みづくり	

安芸地域アクションプラン

	分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.14 日本遺産を活用した中芸地域の活性化 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)	
実施主体	◎中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域のインバウンドを含めた交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大	・日本遺産認定（H29） ・日本遺産のストーリーにちなんだ体験プログラムイベント「ゆず FeS」の開催（H29～10 回） ・ゆず林鉄 EXPO 開催（R2～） ・「第 27 回全国ハーブサミット in 中芸」開催（R3） ・日本遺産関連ツアーの造成（R3～） ・ガイド養成講座の実施（R3～） ・アドベンチャーツアーのモニターツアー実施（R4） ・日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会発足（R4） ・ゆずロードミュージアム開館（R5） ・文化庁の総括評価・継続審査を受検（R5） ・「第 1 回森林鉄道サミット in 高知&中芸日本遺産フェスティバル」開催（R5） ・文化財保存活用地域計画の策定への参画（R5～） ・徳島県三好市と香川県三豊市、琴平町と連携したパンフレットの作成（R5）	【成果】 ・「ゆず FeS」開催状況（R2～5 年度） 第 6～10 回（のべ数） プログラム数：77 参加者数：845 人 ・「ゆず林鉄 EXPO」参加者数 R4：2,800 人(推計) ・ガイド会登録者人数 18 名（R6.2 月末時点） ・林鉄サミットへの阿里山林業鉄道（台湾）関係者の招へい（R5） ・日本遺産の認定継続及び重点支援地域への選定（R5） 【課題】 ・日本遺産関連商品やツアーの造成 ・観光客受入れ体制の充実 ・情報発信 ・既存イベントの磨き上げ ・拠点施設の検討 ・人人体制の強化 ・5 町村の連携強化
協議会の体制強化	・「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会の設立（H28） ・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会事務局発足（H30） ・協議会組織の運営体制の見直し（R2） →産振アドバイザー制度の導入	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
中芸地域主要施設訪問者数	525,906 人 (R4)				570,000 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要	R6	R7	R8	R9	
交流人口拡大に向けた仕組みづくり ■中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 ・研修会等の受講及び関係機関との連携による日本遺産関連商品やツアーの開発、売込み ・台湾との交流、連携 ・外国語対応等のパンフレット作成やガイド人材の育成 ・イベント出展など全国の日本遺産関係者との交流 ・SNS を活用した情報発信 ・既存イベントの磨き上げ ・構成文化財の保存・活用に向けた文化財保存活用地域計画の策定への参画 □県(地域本部等) ・研修会等の情報提供 ・産振アドバイザー等の活用提案 ・関係機関への橋渡し 日本遺産サミットの誘致 ■中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 ・R9 年度開催に向けた受入れ体制の強化 ・日本遺産サミット開催地域の視察 □県(地域本部等) ・各種支援制度の活用支援					
					商品やツアー開発及び受入体制充実
					イベント実施及び情報発信
					日本遺産サミット誘致に向けた取り組み
					サミット開催
次回継続審査（R8 年度）に向けた体制の強化 ■中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 ・事業推進のための体制の再構築 ・地域商社もしくは DMO 設立の検討、準備 □県(地域本部等) ・他地域の事例や他の日本遺産の取り組みの情報提供 ・各種支援制度の活用支援					
					体制の再構築
					地域商社もしくは DMO 設立に向けた取り組み
【用語】 ・日本遺産：地域の歴史的的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。 ストーリーを語るうえで欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。					

修正後

安芸地域アクションプラン

	分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.14 日本遺産を活用した中芸地域の活性化 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)	
実施主体	◎ 中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域のインバウンドを含めた交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大	・案内看板の設置、写真パネル作成等の実施（H21） →産振補助金の活用 ・遺構周辺の遊歩道及び駐車場の整備等の実施（H22） →産振補助金の活用 ・魚梁瀬森林鉄道開通 100 周年記念イベント等の普及啓発事業等の実施（H23） →産振補助金の活用 ・日本遺産認定（H29） ・体験プログラムイベント「ゆず FeS」の開催（H29～11 回） ・ゆず林鉄 EXPO 開催（R2～R4） ・日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会発足（R4） ・「中芸・地域ビジネス講座」開催（R4） →高知県地域の頑張る人づくり事業費補助金の活用 ・ガイド会備品整備及び植物図鑑の作成（R4） →高知県博覧会受入環境等整備支援事業費補助金の活用 ・ゆずロードミュージアム開館（R5） ・「第 1 回森林鉄道サミット in 高知&中芸日本遺産フェスティバル」開催（R5） ・阿里山林業鉄道（台湾）への視察（R6） ・中芸地域内イベント出展による普及啓発活動の実施（R6）	【成果】 ・「ゆず FeS」開催状況（R2～6 年度） 第 6～11 回（のべ数） プログラム数：103 参加者数：1,342 人 ・ガイド会登録者人数 23 名（R6.12 月末時点） ・日本遺産の認定継続及び重点支援地域への選定（R5） ・林鉄サミットへの阿里山林業鉄道（台湾）関係者の招へい（R5） ・ゆずロードミュージアム毎日開館（7/13～8/30 までの期間限定）時の来場者数：252 名
協議会の体制強化	・「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会の設立（H28） ・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会事務局発足（H30） ・協議会組織の運営体制の見直し（R2） →産振アドバイザー制度の導入 ・事務局を 4 名から 5 名に増員（R6）	【課題】 ・日本遺産拠点等の整備 ・観光コンテンツの磨き上げ ・旅行商品のプロモーション ・地域内外への情報発信 ・日本遺産サミットに向けた準備 ・協議会体制の強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
中芸地域主要施設訪問者数	525,906 人 (R4)				570,000 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要	R6	R7	R8	R9	
交流人口拡大に向けた仕組みづくり ■中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 ・研修会等の受講及び関係機関との連携による日本遺産関連商品やツアーの開発、売込み ・台湾との交流、連携 ・外国語対応等のパンフレット作成やガイド人材の育成 ・イベント出展など全国の日本遺産関係者との交流 ・SNS を活用した情報発信 ・既存イベントの磨き上げ ・構成文化財の保存・活用に向けた文化財保存活用地域計画の策定への参画 □県(地域本部等) ・研修会等の情報提供 ・産振アドバイザー等の活用提案 ・関係機関への橋渡し 日本遺産サミット開催に向けた準備 ■中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 ・R9 年度開催に向けた受入れ体制の強化 ・日本遺産サミット開催地域の視察 □県(地域本部等) ・各種支援制度の活用支援					
					商品やツアー開発及び受入体制充実
					イベント実施及び情報発信
					日本遺産サミット開催に向けた取り組み
					サミット開催
自走に向けた体制の強化 ■中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 ・事業推進のための体制の再構築 ・地域商社もしくは DMO 設立の検討、準備 □県(地域本部等) ・他地域の事例や他の日本遺産の取り組みの情報提供 ・各種支援制度の活用支援					
					体制の再構築
					地域商社もしくは DMO 設立に向けた取り組み
【用語】 ・日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。 ストーリーを語るうえで欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。					

修正前

分野 観光

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
キャンプ場の磨き上げ	・キャンプ場リニューアルに向けた基本計画の策定（H30）及び実施設計の作成（R 元） →観光拠点等整備事業費補助金を活用 ・改修工事の実施（R2） →地域観光振興交付金等を活用 ・安田川アユおどる清流キャンプ場設置及び管理に関する条例の制定（R2） ・安田川アユおどる清流キャンプ場リニューアルオープン（R3） ・Web 予約開始（R3）	【成果】 ・キャンプ場リニューアルオープン（R3） ・雇用創出：1 名（安田町内より（R3～）） ・「ゆず FeS」を通じた体験メニューの利用者数 田中ケンのオーギービーフ BBQ 講座（R3）：10 組 22 名 ・中芸ハーブフェスティバル 「ゆずを使った三つ星キャンプ飯！これが中芸スタイル」のYouTube 視聴者数（R3～）：820 名 【課題】 ・人手不足 ・地域資源を活用したアクティビティの強化 ・イベント開催や体験メニューの造成 ・周辺施設等との連携による相互誘客の仕組みづくり及び地域食材の提供 ・雨天対策や冬期の誘客
安田川ファン拡大に向けた仕組みづくり	・土佐の観光創生塾の受講を通じた JA や安田川漁協との連携による体験メニューの検討（R 元） ・日本遺産関連イベント「ゆず FeS」の体験プログラムとしてキャンプ場で体験メニューを実施（R 元、R3） ・中芸ハーブフェスティバル 2021 で体験メニューを実施（R3） ・専用 HP の立ち上げ・パンフレット刷新（R3） ・味工房じねんと土佐の元気市との連携に向けた協議（R3） ・コールマンパートナーフィールドイベント(R3～) ・Xmas イベントの開催（R3～） ・スカイアンドシー・ムロトとの商談（R4） ・三谷ミートとの商談（R4～） ・完全天日塩（田野屋紫蘭）との商談（R5）	

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
顧客サービスの向上 ■ 指定管理者（(有)ダディースオピニオン） ・新たな人材の雇用・育成 ・顧客ニーズにあった管理・運営方法の検討 ■ 安田町 ・管理・運営に関する指定管理者との調整 □ 県(地域本部等) ・補助金等の各種支援制度の情報提供				
イベント等の開催による利用者数向上 ■ 指定管理者（(有)ダディースオピニオン） ・イベント内容や体験メニュー内容の検討、実施 ・イベント等の継続実施に向けた仕組みづくり ・SNS を活用した継続的な情報発信 ■ 安田町 ・情報発信 □ 県(地域本部等) ・他地域の取り組みや各種支援制度の情報提供 ・関係機関への橋渡し				
周辺施設との連携の仕組みづくり ■ 指定管理者（(有)ダディースオピニオン）、安田町 ・連携内容や方法についての検討、準備 ・連携の継続及び発展の仕組みづくり □ 県(地域本部等) ・連携可能な事業者について情報収集 ・他地域の取り組みや各種支援制度の情報提供				

修正後

安芸地域アクションプラン		分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.18 安田川アユおどる清流キャンプ場における交流人口の拡大による地域の活性化 (安田町)		
実施主体	◎ 指定管理者 ((有)ダディースオピニオン) 、◎ 安田町		
AP への位置づけ	H31.4月		
事業概要	安田町の自然・体験型観光の拠点施設であるキャンプ場において、安田川をはじめとする地域資源を活用したアクティビティの強化や季節毎に特色あるイベントの開催、情報発信などを行い、 <u>ファン</u> の <u>拡大</u> を図るほか、キャンプ場利用者の周辺施設への誘客や地域食材の利活用を推進し、交流人口の拡大と地域活性化につなげる。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
キャンプ場の磨き上げ	・キャンプ場リニューアルに向けた基本計画の策定（H30）及び実施設計の作成（R元） →観光拠点等整備事業費補助金を活用 ・改修工事の実施（R2） →地域観光振興交付金等を活用 ・安田川アユおどる清流キャンプ場設置及び管理に関する条例の制定（R2） ・安田川アユおどる清流キャンプ場リニューアルオープン（R3） ・Web 予約開始（R3） ・<u>新規プラン及び焼肉セット提供開始（R6）</u> ・<u>電子マネー決済対応開始（R6）</u>	【成果】 ・キャンプ場リニューアルオープン（R3） ・雇用創出：1名（安田町内より（R3～）） ・「ゆず FeS」を通じた体験メニューの利用者数 田中ケンのオーギービーフ BBQ 講座（R3）：10組 22 名 ・<u>「土佐あかうし焼く肉セット」販売数（R6）：7 個</u> ・<u>水難事故防止イベントの来場者数（R6）：約 40 名</u> 【課題】 ・<u>利用者数が減少傾向</u> ・<u>周辺施設等との連携による相互誘客の仕組みづくり及び地域食材の提供</u>
<u>ファン拡大に向けた仕組みづくり</u>	・土佐の観光創生塾の受講を通じた JA や安田川漁協との連携による体験メニューの検討（R元） ・日本遺産関連イベント「ゆず FeS」の体験プログラムとしてキャンプ場で体験メニューを実施（R元、R3） ・中芸ハーブフェスティバル 2021 で体験メニューを実施（R3） ・専用 HP の立ち上げ・パンフレット刷新（R3） ・味工房じねんと土佐の元気市との連携に向けた協議（R3） ・コールマンパートナーフィールドイベント(R3～) ・Xmas イベントの開催（R3～） ・スカイアンドシー・ムロトとの商談（R4） ・完全天日塩（田野屋紫蘭）との商談（R5） ・<u>安芸警察署との連携による地域の子ども向け水難事故防止イベントの企画・実施(R6)</u> ・<u>町外事業者との連携によるワークショップの開催(R6)</u>	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
キャンプ場利用者数	7,607 人 (R4)				7,000 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要	R6	R7	R8	R9	
顧客サービスの向上 ■ 指定管理者 ((有)ダディースオピニオン) ・新たな人材の雇用・育成 ・顧客ニーズにあった管理・運営方法の検討 ■ 安田町 ・管理・運営に関する指定管理者との調整 □ 県(地域本部等) ・補助金等の各種支援制度の情報提供					顧客サービスの向上
					安定した運営に向けた管理・運営方法の検討
イベント等の開催による利用者数向上 ■ 指定管理者 ((有)ダディースオピニオン) ・イベント内容や体験メニュー内容の検討、実施 ・イベント等の継続実施に向けた仕組みづくり ・SNS を活用した継続的な情報発信 ■ 安田町 ・情報発信 □ 県(地域本部等) ・他地域の取り組みや各種支援制度の情報提供 ・関係機関への橋渡し 周辺施設との連携の仕組みづくり ■ 指定管理者 ((有)ダディースオピニオン) 、安田町 ・連携内容や方法についての検討、準備 ・連携の継続及び発展の仕組みづくり □ 県(地域本部等) ・連携可能な事業者について情報収集 ・他地域の取り組みや各種支援制度の情報提供					イベント等の内容検討
					イベント等の実施及び情報発信
					連携内容等の検討
					継続及び発展の仕組みづくり

安芸地域アクションプラン		分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.20 自然や歴史・文化を活用した山と暮らす馬路村の観光振興 (馬路村)		
実施主体	◎馬路村		
AP への位置づけ	R6.4 月		
事業概要	千本山や安田川等の自然資源、魚梁瀬森林鉄道や山村の暮らし等の歴史・文化を活用した観光コンテンツを開発し、既存の観光資源と連携した村内への誘客と観光消費額の拡大を図る。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受け入れ体制の充実・強化	・馬路村ふるさとセンターまかいちよって家の開設（H8） ・「特別村民制度」の開始（H15） ・「村の案内人クラブ」の発足（H22） ・村内に翻訳機を設置（H27） ・魚梁瀬森林公園オートキャンプ場等の整備（H30） →観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・馬路村の観光を考える会の開催（R3～） ・馬路温泉の建て替えの検討（R4） →産振アドバイザー制度の活用 ・総合的な観光政策に取り組む団体設立に向けての検討（R4） ・民間事業者と連携した観光に係る包括協定の締結（R5）	【成果】 ・特別村民制度の登録者数 12,294 人 （R5.11 月時点） ・主要な観光施設の入込数 R 元：42,831 人 R 2：24,123 人 R 3：26,556 人 【課題】 ・人材不足 ・既存施設の老朽化 ・民間の観光事業者の不足 ・観光客入込数のコロナ禍からの回復 ・新たな観光コンテンツの開発 ・既存の体験メニューの見直し・磨き上げ
観光コンテンツの開発	・馬路村の観光資源の活用方法について検討（H29） →産振アドバイザー制度の活用 ・インバウンド向けモニターツアーの受入れ（R4）	・インバウンドへの対応 ・観光客がお金を使う場所が少ない
情報発信の強化	・観光 PR パンフレットの作成 ・英語版観光パンフレットの作成（H24～） ・Instagram を用いた馬路村の情報発信（R5～）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)観光客入込数	33,379 人 (R4)				37,902 人
(2)主要販売拠点売上高	42,438 千円 (R4)				53,074 千円

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
受入れ体制の充実・強化 ■ 馬路村 ・ワンストップ型総合案内窓口としてのふるさとセンターの体制の検討 ・民間事業者と連携した観光施設等の整備 ・既存施設の改修・修繕 ・村内の観光事業の実施体制の見直し ・ふるさとワーキングホリデーや特定地域づくり事業協同組合の活用による人材確保 □ 県(地域本部等) ・産振アドバイザーの活用提案、各種支援に関する情報提供	総合案内窓口の体制強化 基本構想の策定	施設整備の実施		
	既存施設の改修・修繕			
観光コンテンツの開発・商品化 ■ 馬路村 ・馬路村ならではの観光コンテンツの開発 ・スポーツフィッシングの充実に向けた環境整備 ・インバウンド向けの観光コンテンツの開発 □ 県(地域本部等) ・産振アドバイザーの活用提案、各種支援に関する情報提供 ・あめご（あまご）の漁期変更に向けた支援	観光コンテンツの開発・商品化			
	スポーツフィッシングの充実に向けた環境整備			
情報発信による新規顧客・リピーターの獲得 ■ 馬路村 ・SNS を活用したイベント周知 ・多言語に対応した情報発信 □ 県(地域本部等) ・各種支援に関する情報提供	効果的な情報発信			

安芸地域アクションプラン		分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.20 自然や歴史・文化を活用した山と暮らす馬路村の観光振興 (馬路村)		
実施主体	◎馬路村		
AP への位置づけ	R6.4 月		
事業概要	千本山や安田川等の自然資源、魚梁瀬森林鉄道や山村の暮らし等の歴史・文化を活用した観光コンテンツを開発し、既存の観光資源と連携した村内への誘客と観光消費額の拡大を図る。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
受け入れ体制の充実・強化	- 馬路村ふるさとセンターまかいちよって家の開設（H8） 「特別村民制度」の開始（H15） 「村の案内人クラブ」の発足（H22） - 村内に翻訳機を設置（H27） - 魚梁瀬森林公園オートキャンプ場等の整備（H30） →観光拠点等整備事業費補助金の活用 - 馬路村の観光を考える会の開催（R3～） - 馬路温泉の建て替えの検討（R4） →産振アドバイザー制度の活用 - 総合的な観光政策に取り組む団体設立に向けての検討（R4） - 民間事業者と連携した観光に係る包括協定の締結（R5） <u>・スノーピークとの観光基本構想の策定に向けた取り組み（R6）</u>	【成果】 - 特別村民制度の登録者数 12,473人 <u>（R6.12月時点）</u> - 主要な観光施設の入込数 R元：42,831人 R2：24,123人 R3：26,556人 【課題】 - 人材不足 - 既存施設の老朽化 - 民間の観光事業者の不足 - 観光客入込数のコロナ禍からの回復 - 新たな観光コンテンツの開発 - 既存の体験メニューの見直し・磨き上げ - インバウンドへの対応 - 観光客がお金を使う場所が少ない
観光コンテンツの開発	- 馬路村の観光資源の活用方法について検討（H29） →産振アドバイザー制度の活用 - インバウンド向けモニターツアーの受入れ（R4） <u>・あめご（あまご）の特別採捕調査（R6）</u>	
情報発信の強化	- 観光 PR パンフレットの作成 - 英語版観光パンフレットの作成（H24～） - Instagram を用いた馬路村の情報発信（R5～） <u>・合同会社 DMM との包括連携協定式（東京）と併せて馬路村 PR イベント「ゆず香る村めしマルシェ」を実施（R6）</u>	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)観光客入込数	33,379 人 (R4)				37,902 人
(2)主要販売拠点売上高	42,438 千円 (R4)				53,074 千円

第 5 期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
受入れ体制の充実・強化 ■馬路村 ・ワンストップ型総合案内窓口としてのふるさとセンターの体制の検討 ・民間事業者と連携した観光施設等の整備 ・既存施設の改修・修繕 ・村内の観光事業の実施体制の見直し ・ふるさとワーキングホリデーや特定地域づくり事業協同組合の活用による人材確保 □県(地域本部等) ・産振アドバイザーの活用提案、各種支援に関する情報提供	総合案内窓口の体制強化			
	基本構想の策定	実施に向けての検討	施設整備の実施	
	既存施設の改修・修繕			
観光コンテンツの開発・商品化 ■馬路村 ・馬路村ならではの観光コンテンツの開発 ・スポーツフィッシングの充実に向けた環境整備 ・インバウンド向けの観光コンテンツの開発 □県(地域本部等) ・産振アドバイザーの活用提案、各種支援に関する情報提供 ・あめご（あまご）の漁期変更に向けた支援	観光コンテンツの開発・商品化			
	スポーツフィッシングの充実に向けた環境整備			
情報発信による新規顧客・リピーターの獲得 ■馬路村 ・SNS を活用したイベント周知 ・多言語に対応した情報発信 □県(地域本部等) ・各種支援に関する情報提供	効果的な情報発信			